

「きょうと☆いのちかがやく博物館」
京都市動物園・京都府立植物園・京都水族館 3 園館連携
第 3 回連携ワークショップ「生物多様性を学ぶ～ヤリタナゴの再導入にむけて～」
実施報告

開催日時：平成 27 年 9 月 13 日（日）9:00～11:00

場所：京都市動物園及び白川（仁王門橋～石泉院橋館）

参加者：15 名（小学 5 年生～高校 3 年生まで）

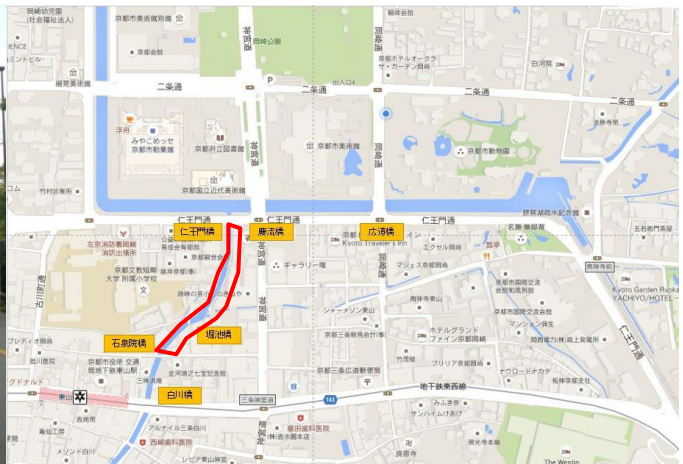
関係者：18 名（京都市動物園，京都府立植物園，京都水族館，京都市青少年科学センター，
京都精華大学，京都市立高野中学校，京都市立開晴中学校）

内容：

○京都市動物園レクチャールームに集合し，プログラムの内容説明及び関係者紹介



○琵琶湖疏水にまつわる動物園のお話（昔は飼育員が疏水で飼育動物の餌を確保していたことなど）をしながら，調査場所の白川に移動。



□が調査エリア

○白川に到着後、特別採捕旗を掲げるとともに、京都水族館の下村館長と関副館長による小型定置網の設置を見学しました。



○その後、3グループに分かれ、水質検査・投網・たも網採集を行いました。



※水質調査では、パックテストを使った調査及びうきを使用して流れの速さを調査しました。

その結果は、pH 7.0~7.5, COD (科学的酸素要求量) 3~6mg/L, NH₄⁺ (アンモニウム態窒素) 0.2 mg/L, NO₂ (亜硝酸態窒素) 0.005 mg/L, NO₃ (硝酸態窒素) 0.2 mg/L, PO₄ (りん酸態りん) 0.02 mg/L で、生活排水・工場排水や肥料などによる影響は認められませんでした。また、川の流れは毎秒 60cm 以上を記録しており「速い」ことが確認されました。



※投網は京都水族館の関副館長の指導により実施しました。



※たも網採集は、京都水族館の下村館長に御指導いただき、カマツカ、カワムツ、カワヨシノボリ、ヌマチチブ、ナベブタムシ、ヤゴ（シオカラ型）、外国産シジミ類、スジエビ、カワリヌマエビ属の1種、トンガリササノハガイ、タテボシガイ、イシガイ、ネジレモ、ササバモ、フサモ等多様な生き物を採取・観察することが出来ました。



※最後に下村館長と関副館長による魚の生息に適したポイントでの投網によって、カネヒラやヤリタナゴ、アユなどの在来種が採捕されるとともに、オオクチバスやブルーギルといった外来種も採捕され、生態系の現状を知ることが出来ました。と同時に、調査実施中には道行く人々から注目され、多くの方々から質問されるなど、関心の高さも知ることが出来ました。



※白川での調査活動を終えた後、園内の噴水池に場所を移動し、採取した二枚貝とカネヒラを放流しました。

NHK大阪の「関西NEWSWEB」にアップされています。

<http://www3.nhk.or.jp/kansai-news/20150913/4841101.html>



採取した二枚貝のうち11個は噴水池の環境への適応について追跡調査するためにネットに入れ管理しています。また、カネヒラ7尾についてもモンドリなどを使って、調査を続けたいと思います。そして、これらの調査結果を踏まえて、今後のヤリタナゴの再導入に向けた取組を進めていきます。

御参加並びに御協力をいただいた皆様ありがとうございました。引き続きよろしく願いいたします。

生き物・学び・研究センター 和田